

■秋田市役所新庁舎概要

敷地面積▶約25,850㎡

延べ面積▶約31,000㎡

構造▶鉄筋コンクリート造(免震構造)

階数▶地上6階、地下1階

高さ▶約30m

市民サービスの新たな拠点、誕生！

いよいよ5月オープン！ 次世代へ引き継がれる庁舎をめざして

秋田市役所の新庁舎建設工事は、平成25年12月の着工から2年が経過し、工事も順調に進み、秋田杉を外部に活かした秋田らしさ漂う新庁舎が、いよいよ姿を現してきました。

新庁舎開庁は5月6日(金)の予定。窓口の分散が解消され、市民サービスの向上が図られるほか、交流スペースや防災拠点機能などを備えた、市民に親しまれる安全・安心な庁舎が、この春誕生します。

現在の庁舎と議場棟は、昭和39年10月の竣工から50年近く経過して建物の老朽化が進み、同時に耐震診断により地震への安全性の不備が指摘されました。市では、これらの状況を踏まえ、平成22年6月に新庁舎建設を決定し、庁舎の建て替えを進めてきました。

平成21年度▶耐震診断
平成22年度▶建設基本構想策定
平成23・24年度▶基本設計・実施設計
平成25・28年度▶新庁舎建設工事

西側から見た新庁舎完成予定図



新庁舎5つの基本コンセプト

- ▶市民に親しまれ、市民サービスの向上を実現する、人にやさしい庁舎
- ▶防災拠点となる、市民に安全・安心な庁舎
- ▶環境共生へ取り組む、地球にやさしい庁舎
- ▶秋田の地域性を生かし、周辺環境と調和した庁舎
- ▶今ある資産を活用し、長く使い続けられる庁舎



次のページへつづく

新庁舎にはこんな特徴が！

サービスの向上を実現する庁舎

新庁舎は、1階中央部分に複数の用件を1か所で行うことができる「総合窓口」を設置します。

また、子どもや福祉、税関係の窓口を1階と2階に集約し、市民が利用しやすい庁舎になります。

市民に親しまれる庁舎

2階と3階に、市民の地域活動の拠点となる中央市民サービスセンターを併設し、市民が利用できる多目的ホールや和・洋室、子育て交流ひろばなどを設置します。

環境に配慮した庁舎

「環境立市あきた」の実現に向けて、太陽光や地中熱などの再生可能エネルギーを積極的に導入するほか、「自然採光」「自然通風」を取り入れ、庁舎内の消費エネルギーの削減と効率化に努めます。



*庁舎南側の屋上面(上の写真の白丸部分)などに太陽光パネルを設置します。

新庁舎配置図



市民の広場…敷地の中心である現庁舎跡地を市民の広場として、市民の憩いの場や各種イベント会場として活用します。

緑に囲まれた庁舎…敷地北側と東側の山王官公庁緑地に加え、南側と西側に新たな緑地帯を整備し、敷地全体を緑で囲みます。外構工事は4月上旬から開始する予定です。

秋田杉の庇(ひさし)…日差しを調整する深い庇を設けます。秋田杉を使うことで、秋田らしいデザインに。



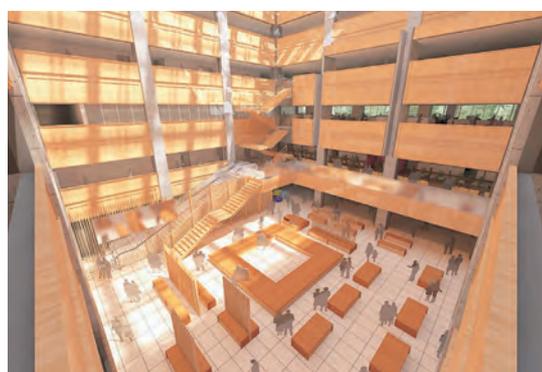
防災拠点となる庁舎…屋上の鉄塔(右)は防災無線用です。また、万一の津波・浸水に備え、主要な機械室、電気室を上層階に設置します。電気や水などのライフラインが断絶しても、庁舎機能を数日間維持できる備蓄(非常用発電機、給排水設備)を計画しています。



新庁舎平面図



市民の座(1階)…市民の待ち合わせスペース。天井の吹き抜けが開放的な空間です。



市民ホール(1階)…行政情報の発信スペースとしてだけでなく、臨時の窓口業務の拡張スペースとして活用します。



子育て交流ひろば(2階)…すでに各市民サービスセンター内にある子育て交流ひろばを新庁舎内にも設置します。就学前のお子さんと保護者が自由に遊べるスペースです♪



